



#幸せな贈り物

# たましいの 目を開かせる グレイゾーン

Gray Zone

## 孤独、 はたして人生の毒なのか

最近、自殺1位地方自治体の汚名を返上したソウル、ノウオン区のひとり暮らしの老人を世話する働きの成果が伝えられました。ノウオン区は、2009年、全国228箇所の市郡区の中で自殺者が180人で1位でした。人口10万人当り自殺者数が29.3人で、自殺率が最も低いソチョ区15.4人の倍にもなりました。それで、2010年に677

人の自治体の長を通して65歳以上のひとり暮らし老人1万1,474人を対象に生活実態はもちろん、精神健康調査を実施した結果、自殺の最も大きい原因は孤独と貧困だと現れました。検査結果により、うつ病の危険があるひとり暮らし老人1,324人に集中相談サービスを受けるようにさせて、自殺を試みた人と自殺遺族など危険が高い人々には、仏教、カトリック、キリスト教で推薦された「いのちを守る」400人が別に管理しました。成果は数字で確認されました。自殺者が2009年180人から2011年128人に減り、人口10万人当り自殺者数も29.3人から2011年21.2人で27.6%落ちました。ノウオン区は自殺予防事業を拡大して、2017年まで人口10万人当り自殺者数を経済協力開発機構OECDの平均水準である11.2人まで低くする夢を持っていると言われています。

アメリカの歴史上、最も尊敬される大統領であるリンカーンは、激励ほど大きい贈り物はないと言いましたが、彼が暗殺されたときも、ポケットから発見された新聞記事の一枚は「リンカーンはすべての時代の最も偉大な政治家の中のひとりだった」という激励の文だったということです。いっしょにする小さい世話と配慮、そして、激励はあなたを忘れないようにさせる最も貴重な投資ではないでしょうか。

今日の現代人の3大病は、ガン、心筋梗塞、脳卒中だと言われている、これから迫る最も大きい病気の一つは精神病と麻薬だと言われています。すでに先進国では麻薬中毒で多くの社会的副作用が起きていることを否定することができません。精神病の代名詞と呼ばれるうつ病の歴史は非常に長く、医学の父と呼ばれる古代ギリシャの医学者ヒポクラテスさえも、すでに言及しているほどです。

それなら、はたしてうつ病を呼び起こす多くの要素の中で代表的な人間の絶望と孤独は、はたして人生において害をもたらす毒素であるだけでしょうか。初代文化部長官をつとめたイ・オリョン博士は<知性で霊性によって>という本で告白するのに、自分の絶望の孤独

がないならば、人間は自分が霊的存在であることを自覚するのが難しいと話しました。

「絶望してみたことがない人は絶対に霊性を得ることができません。自分の破壊という劇的な経験なしでは霊性を持つことは難しいです。それで世俗的に安らかな人は、神様を受け入れるのが難しいのです。この世には光だけでなく、やみも必要です。神様は光とやみが合わさった『グレイゾーン』(Gray Zone 灰色地帯)である大空で万物を創造されました。光とやみを分かってこそ、人間の限界を超越して霊性の世界へ行くことができます。霊性の世界は理解したり、説明することではありません。自分の絶望をきっかけにして、霊性の世界へ投げ入れられるのです」20世紀の詩人エリユールは「人間は互いに和合するために生まれた。互いに理解して互いに愛するために生まれた」と話しました。それなら、なぜ人間は孤独を最も絶望に感じるようになるのでしょうか。本来、人間は一人で存在できないのです。なぜなら、そのように創造されたからです。

## 孤独、

永遠にともにいるよういなる祝福への分かれ目

人間の根本的な孤独と絶望をどのように理解すべきで、それを解決する道は何でしょうか。みなさんがよくご存知のように、パスカルは「人間は霊的な存在だ。それで、人の心の中には神様だけが満たせる空間がある」と話しました。このような人間の根本的なむなしさに対して聖書は次のとおり説明しています。人間は、本来、神様のかたちとして創造されました。人間は神様の子どもであり、神様とともに永遠にすべての万物を治めながら生きていく祝福を受けました。魚が水の中に生きて、木は地に根をおろして生きるように、私たちは目に見えない霊である神様とともに暮らすように約束された霊的な存在でした。

ところが、人間はサタンにだまされて、その約束を破って、神様を離れる罪を犯すようになりました。このときから、人間の運命はサタンに左右されて、のろいと苦しみの中に陥るようになったのです。そうして、いつも安らぎがなくて、不安な未来のために占いをして、運命と運勢の厄を防ぐためにお祓い

をして、偶像崇拜に陥るようになりました。いくら知識と名誉、お金が多くても満足できず、なにか知らず不安で、各種のストレス、不眠症、うつ病のような精神的な問題に捕われるようになりました。それだけではなく、肉的な問題もくるようになって、不治の病、悪夢、名前の分からない病気に苦しめられたりもします。酒、タバコ、麻薬、ギャンブル、淫乱など、あらゆる快楽で解決してみようとするのですが、より一層むなしくて不安になり、深くなる孤独はどうしようもありません。この問題は子孫にも相続という名前でそのまま伝えられて、三代四代まで苦しみを受けるようになる現実を私たちは否めないのです。結局、そのまま死んだら、死んでまで永遠な地獄の苦しみの中に陥るしかはないのが神様を離れた人生の限界であることを聖書は明らかにしています。

私たちはこの問題を抜け出そうと、いろいろな努力をつくすのですが、いくら立派な善行や哲学、宗教、倫理、道徳でも、サタンという霊的存在がもたらす問題を解決することはできません。水を離れた魚が水でない他のどんなものでも満足することができないように、神様を離れた人間は、神様と出会う以外に他のどんなものでも、この問題を解決することができないのです。

それで、神様は私たちの人間に大きい愛を与えてくださり、人間が神様に会う道を開いてくださいました。それがまさにこの世に人間のすべての問題を解決する「キリスト」を送られるという約束です。人間のからだをとってこの地に来られて、サタンのしわざを打ちこわして、十字架で血を流して死んで3日後に復活されることによって、私たちの罪の問題を解決して神様に会う道を開いてくださいました。その方がまさにキリストである「イエス」です。このイエス・キリストを私の救い主として、心で信じて受け入れれば救われて神様の子どもになります。それは、孤独からの永遠な断絶を意味します。なぜなら、神様はあなたと永遠にともにおられるようになるためです。救いとは、神様と永遠にともにいるようになることです。「あなたは大切な人です」

「見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。」マタイの福音書 28:20

## 人間のみじめさの答え

# 愛と義

「鶏が先か、卵が先か」「罪を犯したので罪人なのか、罪人だから罪を犯すのか」解答がないように絶えず繰り返される質問です。しかし、解答はむしろ簡単です。進化論的な立場で見れば卵が先かもしれないのですが、聖書で話す創造論の立場では鶏が先です。創世記1章25節を見れば「神は、種類にしたがって野の獣を、種類にしたがって家畜を、種類にしたがって地のすべてのほうものを造られた。神はそれを見て良しとされた。」となっています。それ以後に生めよ、ふえよ、地を満たせとおっしゃいました。

人間も同じです。神様が創造された本来の人間は神様のかたちとして造られた良い人間でした。しかし、エデンの園で霊的存在であるサタンの誘惑によって起きた善悪の知識の木の実事件以後、人間は悪の影響を受けるしかない罪人に転落してしまいました。「罪を犯している者は、悪魔から出た者です。悪魔は初めから罪を犯しているからです。神の子が現われたのは、悪魔のしわざを打ちこわすためです。」(ヨハネの手紙第一 3:8) ですから、この世の犯罪は教育や科学の発達と関係なく増加するしかないのです。ローマ人への手紙3章23節を見れば、すべての人が罪を犯したので神様の栄誉を受けることができず、結局は、のろいと御怒りの下に置かれるようになったとされています。

しかし、神様は人間を罪によるみじめさの中に置いておかれることを願われませんでした。どんな親が子どもをみじめに置いておくでしょうか。それで、神様が他の条件なく、愛の力で人間を救うことにしてくださいました。ヨハネの福音書3章16節に「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」とされています。しかし、無条件に救われるのではありません。人間を救うイエス・キリストを十字架に釘づけられ、正しい義(公義)を成し遂げて救わってくださいました。恵みで救われるのですが、ただで受けたものではありません。ローマ人への手紙6章23節を見れば、罪からの報酬は死だと言われています。神様はキリストをあがないのいけにえとして送って、すべての義を完成されました。途方もない法的な代価を十字架で支払われたのです。それで、イエス・キリストを信じるすべての人間を罪と死の原理から解放してくださいました。(ローマ人への手紙8:2) なぜそうすべきだったのでしょうか。地球上の人間は、だれも罪と地獄とサタンの権威に勝つことができません。人間がいくらよく食べて生きていても、負債がものすごくたくさんある人は絶対に幸せではありません。だれかがきて良いことを話しても、死の前にある人は幸せではありません。それで、神様が愛を与えてくださったのです。ローマ人への手紙5章8節に「しかし私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます。」と言われました。みじめな中においてはならないと恵みをくださったのです。

「主の御名を呼び求める者は、だれでも救われる」のです。

(ローマ人への手紙 10:13)

## 神様の子どもになる 受け入れの祈り

愛の父なる神様。私は罪人です。今まで神様を離れ、サタンの支配の下に縛られて、奴隷のように生きて来ました。しかし、今、この時間、イエス様を私の救い主、私の神様、私のキリストとして受け入れます。イエス・キリストは、神様に会う唯一の道であり、サタンの権威を打ち砕かれ、すべての罪とのろいと災いから私を解放してくださったキリストであると信じます。いま、私の中に入って来てくださり、私の主人になってください。今から私の生涯を細かく導いてください。イエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

## 神様の子どもの 毎日の祈り

父なる神様、イエス・キリストによって神様がいつも私とともにおられて、導かれることを感謝します。

今日も、すべての生活の中で、神様の子どもになった祝福を味わうように、聖霊で満たしてください。私の家庭と現場と行くところごとに福音を邪魔して困らせるすべてのサタンの勢力を権威あるイエス・キリストの御名で縛ってください。

どんなこと、どんな問題でも、解決者であるイエス・キリストに任せて、その中で神様のより良い計画を発見しながら、聖霊に導かれる生活になりますように。そして、私の生活を通してイエス様がキリストであるということがあかしされ私の現場に神の国が臨むようにしてください。毎日、私の生活の中で神様の願いである世界福音化の契約を握って勝利できますように。

今も私とともにおられるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン



# 私の人生の みどり を求めるとき

イラスト\_イ・ハウン

都市で生活する人は、家の近くで簡単に大型マートを見られるだろう。寒波が続く時期だが、食材コーナーには新鮮な各種の野菜と季節を忘れた果物が山積みのように積まれている。栽培方式が現代化したけれども、海外から農産物が思いきり入ってくるからのようだ。以前、このように雪がたくさん降って寒い季節に、中国の東北地方を巡回したことがあったが、村全体がkachakachiに凍りついて、道はすべりやすく、雪は蒸し餅のように高く積み上げられていた。ところが、市場をすぎて見たらミカンと熱帯の果物がたくさんあるのを見た。確かにその地域で出荷されたことではないと思えたので尋ねたところ、当然の答えが返ってきた。中国は土地が大きいので、あの南側のベトナムの近くで取った果物が何日間か汽車に乗ってくると、このような田舎まで到着するということだった。本当に必要があれば、供給されるという生産原則が適用されるのを見た。都市で生活する人は、家の近くで簡単に大型マートを見られるだろう。寒波が続く時期だが、食材コーナーには新鮮な各種の野菜と季節を忘れた果物が山積みのように積まれている。栽培方式が現代化したけれども、以前、このように雪がたくさん降って寒い季節に、中国の東北地方を巡回したことがあったが、村全体がkachakachiに凍りついて、道はすべりやすく、雪は蒸し餅のように高く積み上げられていた。ところが、市場をすぎて見たらミカンと熱帯の果物がたくさんあるのを見た。確かにその地域で出荷されたことではないと思えたので尋ねたところ、当然の答えが返ってきた。中国は土地が大きいので、あの南側のベトナムの近くで取った果物が何日間か汽車に乗ってくると、このような田舎まで到着するということだった。本当に必要があれば、供給されるという生産原則が適用されるのを見た。

野原に出てみれば、冬を過ごす自然の姿が荒涼なことこの上ない。緑の草と木、野菜は影も形もなく、干からびた木が死んだように立っていて、かえってながめるだけでも、ものさびしい。目は緑を見るとき、健康を維持することができるのに、そのときごとに市場をうろつくことができない役割なので、季節を味わう方法を学ばなければならないようだ。

人ごとに自然を思う心があるが、東西古今が同じ

だ。それで、ある者は冬でも植木鉢をていねいに育てて、緑の光を家の中に留めて慰められる趣味生活も見られる。最もあくどい犯罪者でも、その人にとえられた神様の警告は良心だ。仕方ない環境で問題の中にはいるようになったかもしれないが、彼が静かに自分を見るようになる時は、必ず後悔して反省するのはそのためだ。まして、健康な人には、良心の作用は人生の本質を見出すときにあらわれる。前にだけ走って行く時は見えなかった自分の現実と未来が、静かにゆっくりして自分をながめるようになる時は、福音の事実を耳を傾けるしかなくなる。このように、冬の庭で緑を思うのは、意味をよく表現する詩人ではなくても当然に思えるのだ。

現象で価値を探すように、人は本質に対する飢え渴きをもって質問を隠したまま一日、また一日を送る。そのように、同じように一日がよく過ぎて、そのように簡単に一月がすでに過ぎて、一年が簡単に過ぎるとき、ある日、私自身を考えてみる時間をのがして後悔の涙を流すのが人生だ。それなら、冬の空の野原で緑を求めるように、私の人生の今日に希望を見出すのは、早く起きた鳥が餌を先に探すように意味ある時間だ。

干からびて見える冬の木をこっそり折ってみれば、そこに青い肌が見られる。表面は死んだように見られても、中には水分が供給されて生きているのだ。結局、春がくれば、すべての木はいっせいに芽が萌え出て、花が咲くようになり、結局、木の葉が生い茂るようになる。それはただ木が土地に根をおろしているためだ。目に見えない木の根が、凍ってしまった土地の中で存在しているので、現実の苦しみである冬を耐えながら春の祝福を待てるのだ。いのちの根源は、ただ福音であるが、その源泉はキリストだ。今、木が青くても根がないならば枯れてしまうが、今日、干からびていると見えても福音の中に根をおろしているだけで、現実の問題が難しいどんな場合にも、その人はいのちを持った者の祝福を味わうようになる。覚えておくべきことは、目に見えることがすべてではないということだからだ。

チョン・ヒョングク(福音コラムニスト)

\*相談したい方はこちらまでどうぞ